伊丹市文化財ボランティアの会

火曜会通信

第８６号
発行日　：令和２年　９月１日
発　行　：伊丹市文化財ボランティアの会
発行所　：伊丹市千僧１－１－１
伊丹市教育委員会事務局内

新体制での活動に向けて

会長　末次弘幸

2020 年はオリンピック・イヤーとして明けたのですが、新型コロナウィルス感染拡大の影響で、オリンピックは 1 年延期となり、「コロナ時代」の幕開けとなってしまいました。

コロナ感染防止の一環として、伊丹市内の施設は３月から休館となり、幹事会・定例会が中止に追い込まれ、年度初めの総会も開催できませんでした。

4 月下旬に会員の皆さまに総会議案書をお届けし、5 月初旬までに書面で意思表明をお願いした結果、大多数の賛成を得て議案は可決。併せて役員・幹事の人事案につきましても、賛成多数で承認され、2020 年度新体制がスタートすることとなりました。

2016 年４月から会を率いてこられた内田前会長ならびに役員・幹事の方々に、この場を借りて「お疲れさまでした」と、感謝の意を表したいと思います。

また、この困難な時期に、会の運営を担うこととなった新役員・新幹事諸氏に、ご協力・ご支援をお願い申し上げる次第です。

さて、新体制につき、再度確認させていただきます。

長年慣れ親しんだ4班（水曜班・木曜班・金曜班・土日曜班）によるグループ運営を廃止し、事業別（機能別）5グループ（史跡ガイド班・岡田家ガイド班・ロマン体験学習支援班・広報班・研修サロン班）で、活動を行ってまいります。

曜日班につきましては、①会員減少により単独では活動できなくなる班がある②所属する班の曜日以外でも活動できる会員がいるのに、そのマンパワーを十分に活用できていない、などの問題点が生じておりました。曜日班運営の課題・問題点を緩和し、マンパワーを有効かつ最大限に活用するための一方策として、事業別（機能別）班体制へ移行し、全会一致体制（One Team）での活動を目指したいと考えております。

文化財ボランティア活動を行う上で大切にしたい指針、それは「相互扶助」と「自主・自発」です。

会則第２条に「この会は市内に所在する文化財を保護・顕彰するとともに、文化財の調査・研究・学習を通じて自己の向上を図り、ボランティア活動を通して広く市民に還元

【ボランティアガイドの案内】

「伊丹市文化財ボランティアの会」では、市内外から訪問される人たちに対して、伊丹市内に散在する文化財（史跡）のガイドを行っています。ガイドをご希望される方は、伊丹市教育委員会事務局内　文化財担当までお問合せください。（☎：072-784-8090）

することを目的とする」と定める通り、ボランティア精神にのっとり、「世のため・人のため、伊丹市民のため・伊丹市のため、ほかの会員のため・会全体のために」という意識をもって、会員が相互に協力し合いながら、活動していきたいと考えます。

第 35 代アメリカ大統領ジョン・エフ・ケネディは、就任演説（1961 年 1 月 20 日）で国民に向かって、次のように訴えました。

「アメリカ国民の皆さん、あなたの国があなたのために何をしてくれるのかを問わないでください。あなたが国のために何ができるのかを問うて欲しいのです」。

このケネディ演説をそのまま借用し、会員の皆さまに、次のようにお願いしたいと思います。

「文化財ボランティアの皆さま、この会があなたのために何をしてくれるのかを問わないでください。あなたが、この会のために、ほかの会員のために何かできることはないか、と常に自問しつつ、自主的・自発的に活動していただきたい」。コロナ禍で厳しい環境が続きますが、「世のため人のために」という共通のゴールを見据えて、会員同士の堅い結束・相互協力により、この苦境を乗り越えていきたく、皆さま方の絶大なるご支援を、お願い申し上げます。

新型コロナウィルス感染防止のため、
ソーシャルディスタンスを取った定例会

「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷　日本遺産認定！

清酒発祥の碑

6 月 19 日、伊丹市（幹事市）・神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市が申請した『「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷』が日本遺産審査委員会による審査の結果、令和 2 年度の日本遺産に認定されました。

5 市及び兵庫県、灘五郷酒造組合、伊丹酒造組合、各市観光団体による協議会を設立し、地域の魅力的な文化財及び観光資源を国内外に発信していきます。

日本遺産とは、文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、ストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援するもので、平成 27 年度から認定を開始し、令和 2 年までに 100 件程度を認定することで事業が始まったものです。新規認定の募集は今回をもって最後となる予定の中で、初めて「日本酒」をテーマとしたストーリーが認定されました。

（伊丹市・伊丹市教育委員会事務局）

「伊丹市文化財ボランティアの会」では、我が国最古の酒蔵「旧岡田家住宅・酒蔵」や清酒発祥の碑などの文化財のガイドを通じて、清酒発祥の地・伊丹を体感するお手伝いをしています。

今回の日本遺産の認定により、伊丹市の認知度が高まり、私たちの活動が活発になることを願っています。

※旧岡田家住宅は博物館機能移転ならびに大規模改修工事に伴い、みやのまえ文化の郷が休館するため、令和 2 年 9 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日（予定）は見学できません。

日本最古の酒蔵「旧岡田家住宅・酒蔵」

文化財ボランティア勉強会①

「歴史上の英傑たちに学ぶ人間力：明智光秀」　講師　末次　弘幸

7 月 14 日（火）、第1回の勉強会が開催されました。新型コロナウィルス感染拡大の影響によりガイド依頼も中止、例会もできるだけ自粛という中、それを逆手にとって自分たちの勉強を深めたいと、この勉強会が企画されました。外出しにくい、そして当日雨の降りしきる中 20 名を超える会員が参加しました。

今回の勉強会は、今年の大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀を取り上げました。今まで放映された若き日の光秀は「明智軍記」を元にしていることをこの勉強会で知りました。

大河ドラマもそうですが、織田信長を討った極悪人というイメージが大きく変わりました。信長の配下で一番初めに城持ち大名になったということ、その城である坂本城は、京との流通がよく、焼き討ちの前は比叡山延暦寺の門前町でもあり、船を使えば対岸の安土城にもすぐ行けるという商業・軍事両面での要でもありました。築城に優れていたことについてはルイス・フロイスの『日本史』に記されていますし、坂本に残る石組みでも見てとれます。（坂本城と安土城というテレビ番組で紹介されていました）

坂本城跡近くに立つ「明智光秀像」

功が成った後の半生においても、家臣を身分にかかわらず大事にするエピソードなども紹介され、今は中断している「麒麟がくる」の続きを見るのが楽しみになりました。

10 ページにもわたる丁寧なレジュメと、分かりやすいパワーポイントを準備してくださった講師末次さんに改めて感謝申し上げます。　（高木　記）

文化財ボランティア勉強会②

「有岡城・伊丹郷町の魅力」　講師　竹本　章

勉強会の第2回目は8月11日（火）に開催されました。今回は「有岡城・伊丹郷町の魅力」と題して竹本章さんの講義でした。

内容的には、伊丹の歴史を①伊丹城期、②有岡城期、③伊丹郷町期と大きく三つに分け、その期ごとに興味のある話題を分かり易く説明されました。

有岡城　石垣跡

まず、①伊丹城期では、「伊丹氏」「伊丹城」という言葉の初見資料について説明がありました。

②有岡城期では、惣構えの北の口に「坂虎口」「くいちがい虎口」といった、敵の侵入を防ぐ「虎口」の存在について、文献を駆使しての説明がありました。また、現在の三軒寺あたりには寺院がたくさん存在しており、有岡城の防御機能を担っていたとのことでした。

さらに、法巌寺の楠の辺りには土塁としての形状が見られるとの報告は非常に興味のある、新しい発見でした。

③伊丹郷町期では酒造業で賑わい、文化の面で花咲く姿を説明され、荒村寺の鬼貫の句碑の詳しい説明、伊丹酒をこよなく愛した頼山陽の母君への孝行と台柿の話、また大塩平八郎と伊丹との関わりについて興味深く聞き入りました。

数々の文献を披露していただき、且つ、竹本さんご自身が撮られた豊富な写真に魅入りながら、往時の伊丹にタイムスリップしたような感覚に浸ることの出来た楽しいひと時でした。　（永野　記）

博物館見てある記⑤	**神戸市立博物館** （所在地：神戸市中央区京町 24）	末次　弘幸

神戸市立博物館は、阪急伊丹駅から神戸三宮駅まで約 30 分、駅からは南西へ徒歩約 10 分、かつては外国人居留地だった地域にある。京町筋に面した建物は、古代ギリシャ神殿風の重厚な造りで、以前は旧横浜正金銀行（現三菱東京UFJ銀行）神戸支店ビル（1935 年竣工）として使用されていた。

1982 年（昭和 57）11 月、市立南蛮美術館と考古館を統合して開館。神戸開港や南蛮貿易に関する資料、銅鐸などの考古資料を中心に、約 7 万点を所蔵している。

常設展示は、1 階「神戸の歴史展示室」と 2 階「コレクション展示室」がある。1 階では神戸の海・港を介して営まれてきた人や文化の実態とその歴史について、4 つの年代に分けて紹介している。五色塚古墳のレプリカや市内に点在する遺跡の出土品なども、ここで見ることができる。

2 階「コレクション展示室」には、所蔵資料・作品を「考古・歴史」「古地図」「美術」「びいどろ・ぎやまん・ガラス」の分野に分けて展示。目玉は、国宝「桜ヶ丘銅鐸 14 点・銅戈 7 点」と重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」で、専用の展示室が設置されている。

銅鐸・銅戈は 1964 年（昭和 39）12 月、神戸市灘区桜ヶ丘町（六甲山系から南へ続く山麓斜面）で、家屋の壁土用土砂を採取中に偶然掘り出されもので、1970 年（昭和 45）5 月に「桜ヶ丘銅鐸・銅戈群」として国宝に指定された。

銅鐸群は、博物館に行く度に何度となく眺めていた。2012 年（平成 24）7 月の特別展「国宝桜ヶ丘銅鐸の謎に迫る」（開館 30 周年記念）では、

桜ヶ丘銅鐸を中心に加茂岩倉銅鐸など各地から集められた 92 個の銅鐸が並べられ、壮観だった。

「聖フランシスコ・ザビエル像」は歴史の教科書などに必ず出ている、なじみの画像。以前は展示されることが殆どなかったのだが、2019 年 11 月（約 2 年に及ぶリニューアル工事後に再開）からは、専用展示室で見ることができるようになった。同年 11 月 2 日から始まった「リニューアル記念特別展」で実物の「ザビエル」に初めて対面した。通常はレプリカ展示で、実物が展示されるのは年間 60 日ほどだという。

ほかに記憶に残る特別展は、2012 年 10 月に見に行った「マウリッツハイス美術館展」。オランダ・ハーグにあるマウリッツハイス王立美術館からフェルメールの代表作「真珠の耳飾りの少女」（1665 年頃）が、神戸にやって来たのである。2 階の特別展示室に入ると、真正面に「少女」がいた。小さな絵だが、存在感がある。「少女」を見ながら動くと、彼女のまなざしが追ってくる感じがした。

余談ながら、神戸では「少女」の前にロープが張られ、3m以上離れたところから遠望させられた。2016 年（平成 28）7 月にオランダ・ハーグでこの「少女」と再会を果たした時には、息がかかるくらいの距離で、今風に言えば「濃厚接触」状態で、なめ回すように鑑賞できたのは、望外の喜びであった。

寄稿　　金継（きんつぎ）について　　内橋義昭

昨年当会のKさんが抹茶を飲むべく持参された抹茶茶碗が割れてしまい、私の妻が金継を習っており修理させてもらうことになりました。

金継とは安土桃山時代から江戸時代初期にかけて茶の湯から始まった日本独自の修復技術です。その昔平重盛が中国人から贈られた「馬蝗絆」（ばこうはん）という青磁茶碗があったそうです。その後足利義政の所有となりますが、その茶碗の底にひび割れがあったのでこれに代わる茶碗を求めて中国に送りました。中国ではこのような優れた青磁茶碗は今はないとのことで、その茶碗のひび割れを鎹（かすがい）で留めて送り返してきました。

馬蝗絆

日本では漆や金粉などを利用する漆工芸技法が盛んであったので、鎹は漆や金に移り変わったようである。（金継の歴史より）

その他金継に関する話では「筒井筒」があります。筒井順慶が所有していた井戸茶碗が秀吉に渡り、それを小姓が誤って落とし五つに割ってしまった。怒った秀吉は小姓を手打ちにしようとしたが、細川幽斎が伊勢物語の「筒井筒　五つに割れし　井戸茶碗　とがをば我に　負ひしけらしな」と詠んで取りなした。利休と幽斎は割れた茶碗を漆で継いで修復し、その茶碗で茶会を開いたそうです。

筒井筒

現在は漆で継いだ後金粉を施す金継が主流となっていますが、この基本工程は次の通りです。

1. 割れた器の破片の断面に接着剤となる漆を塗り破片を貼り合わせ元の形にもどす。
2. ひびには漆を筆で塗り、しみこませる。
3. 漆に粉を入れて粘土状にしたものを欠けた部分に詰める。
4. 漆が乾いたら断面からはみ出た漆を平に削る。
5. 継ぎ目に薄めた漆を塗る。（下塗り、中塗り、上塗り）漆の上に金粉を蒔き載せて真綿で磨く。

以上のような工程ですが、乾燥させなければならないので完成まで数か月かかることがあります。

もし、金継に興味がある方おられましたら、「つかしん」で金継教室をやっていますので見学にきてください。

金継で修理した
Ｋさんの抹茶茶碗

お薦めの本

「図説　明智光秀」　柴　裕之編著

これまで、明智光秀は主君織田信長を討った「謀反人」として、歴史上の悪役で描かれることが多かったようです。しかし昨今新たな資料が見つかり、違った角度からの解釈がなされて、その「実像」の評価は変わりつつあるようです。本書は「真実」の明智光秀像を探るべく、光秀一族や家臣、伝承を含めて可能な限り追求し、戦国時代を駆け抜けた光秀の人生を解説しています。地図や写真がフルカラーで掲載されており、解りやすく読みやすい一冊です。

（金川　記）

分科会（パソコン部会）活動報告

南から北へ大移動

酒井正憲

22 年間、パソコン分科会の拠点として使用してきた「ラスタホール」が令和 2 年 7 月1日から大規模改修工事に入り、完成は令和 3 年 3 月 31 日の予定です。完成後にはマイコン室はなくなり、単なる多目的室になるとのことです。

「私達は何処でパソコン学習をやるの？」との会員の声を受けて、昨年暮れより市内の施設を会場探しに東奔西走しました。しかし、最近パソコンを常設している施設は極めて少なく、会場選定には思いのほか苦戦をしました。

唯一「きららホール」にOAルームが存在することを知り、早速、会長や事務局の推薦状を携えて、「きららホール」の館長に交渉しました。ところが、「きららホール」ではノートパソコンが14台設置してあるものの、サポートが終了したWindows7であったり、プリンターが設置されてなかったりで、設備面でもコスト面でも「ラスタホール」と同じという訳にはいきませんでした。

きららホール

粘り強く館長との話し合いを繰り返し、「きららホール」のOAルームでのパソコン学習が可能となりました。

しかし、学習環境が整いほっとした矢先に、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、3月第 2 週より市内の施設は一斉に閉館となりました。

今回パソコン分科会の会場が、南の「ラスタホール」のマイコン室から北の「きららホール」のOAルームに移動することを機に、パソコン分科会の歴史（歩み）を調べてみました。

発足は、「伊丹市文化財ボランティアの会」の平成8年4月創立から2年後の平成10年（1998）で、旧中央公民館においてパソコン同好会として創設されたと聞いています。

初期の頃は機関誌「火曜会通信」の原稿を同好会の会員でパソコンに打ち込み、データ化していたそうです。その頃使っていたソフトは「一太郎」だったと言われています。

その後、設備の老朽化に伴い、「ラスタホール」のマイコン室に16台のデスクトップが設置され、ソフトも Office（ワード、エクセル）がインストールされ、使い勝手が良いものに変わっていました。

発足から 18 年間の長期にわたり、当時より講師としてご尽力されてきた1期生のS氏のご努力に深く感謝したいと思います。その後は 21 期生のK氏が「役立つパソコンにトライしよう」との趣旨で毎回興味ある課題を提供してくれています。

一方、世話役（敬称略）も、会員 5 人が代替わりし、4 年前より酒井正憲が務めています。

新型コロナウィルス感染症の影響でリモートワーク

きららホールでの活動風景

が推奨され、パソコンやスマホによるIT（情報技術）の活用が広がりを見せています。そのような状況の中、多くの先輩諸氏と関係各位のご努力によって、今日の恵まれた環境下でパソコン学習ができる喜びに感謝せねばなりません。と同時に、今後「伊丹市文化財ボランティアの会」の活動に役立つように、スキルの向上に努めていきたいと考えています。

業務分担による各班の活動方針

今年度より従来の曜日班体制を改め、業務分担による 5 班体制で活動することになりました。活動方針を決めるため、史跡ガイド班と研修サロン班は 7 月 7 日、広報班は 8 月 4 日に、初回の打ち合わせをいたしました。主な内容は下記のとおりです。

（ロマン体験学習支援班と岡田家ガイド班は打ち合わせを延期しています）

■史跡ガイド班（参加者:8 名）

・市民ガイド:年 4 回実施で、今年度は 11 月（文化財保護強調月間）と 3 月（A コース）を予定。

・依頼ガイド:9 月受付開始 10 月実施予定。ガイド担当は各会員のガイド可能日リストに応じて割り当てる。

・屋外研修:年 4 回企画（予定）

・岡田家保管のガイド用マイク、旗などは会長・副会長が保管。

※来訪者と「密接」な関係をつくって、ご案内をするのが「ガイド」の基本だが、三密回避のコロナ時代に適したガイド手法を模索していく必要がある。（リーダー談）

■研修サロン班打合せ（参加者:9 名）

屋内での活動を中心に、会の活性化を図ることが目的です。具体的な活動として以下のような項目を検討している。

・ 定例会発表の運営　　・ 勉強会・研究発表会の開催、

・ 研究成果の保存・伝承　記録誌の発行　・ 将来的に市民対象の発表会の開催

これまでやってこなかった新しい企画を取り入れてみたいと考える。

会員皆様の“こんなことをやってみれば･･･” という提案・要望があれば是非お知らせ下さい。

■広報班（参加者:6 名）

主な活動内容　・会報（火曜会通信）の編集・発行　・ホームページの管理

・文化財保護団体紹介パネル展示のためのパネル製作

・幹事会及び各班からの依頼の、印刷物などの立案・制作

（会員募集、ガイド募集、日帰り旅行募集など）

活動する上での問題点（掲載記事の減少、執筆担当者の選定、会報の名称変更など）を議論。

その他、どんぐり座の公演依頼減少に伴う広報活動や文化財保護啓発事業の市民ガイド（11 月 21 日） の制作物の取り組みについて協議した。

■ロマン体験学習支援班

ロマン体験支援というのは、主に小学生の子ども達が藍染や陶芸、木工作、時には金属の鋳造など、日本古来の伝統的な手仕事を体験する「歴史ロマン体験」のお手伝いです。場所は神津のこども文化科学館近くの埋蔵文化センターで行っています。

子どもたちが楽しそうに、またこわごわと作業をするのを手伝って、できた時の嬉しそうな表情と瞳にとても元気がもらえます。

今年度は、コロナの影響でまだ 1 回も開かれていませんが、再開される日が楽しみです。

■岡田家ガイド班は旧岡田家住宅が令和 4 年 3 月 31 日まで休館予定のため、今回の打ち合わせは行っていません。

コラム　肥後のあまびえ　中村享子

厚生労働省が進めている新型コロナウィルス接触感染アプリココア（COCOA）の表紙に載せられたイラストのアマビエは可愛いですが、水木しげる著、日本妖怪大事典のアマビエは古風です。 弘化 3 年(1846)4 月中旬と記された瓦版に書かれているもの。

肥後国(熊本県)の海中に毎夜光るものがあるので、ある役人が行ってみたところ、アマビエと名乗る化け物が現れて、「今年より 6 ヶ月は豊作となるが、もし流行病が流行ったら人々に私の写しを見せるように」と言って、再び海中に没したという。この瓦版には、髪の毛が長く、くちばしを持った人形のようなアマビエの姿が描かれ、肥後の役人が写したとあります。湯本豪一の「明治妖怪新聞」によれば、アマビエはアマビコのことではないかという。アマビコは瓦版や絵入り新聞に見える妖怪で、あま彦、天彦、天日子などと書かれます。件(くだん)やクダ部、神社姫といった、病気や豊凶の予言をし、その絵姿を持っていれば難から逃れられるという妖怪とほぼ同じものといえます。アマビコの記事を別の瓦版に写す際に間違えてアマビエと記してしまったのだというのが湯本説です。

活動記録　（5 月～8 月）

【定例会】・6/9（火）

※新型コロナウィルス感染拡大により 7 月・8 月の定例会は行われず、各班の打ち合わせと勉強会が行われました。また、依頼ガイド・歴史ロマン体験学習支援・どんぐり座公演も行われませんでした。

今後の予定　（9 月～11 月）

【定例会】・9/8（火）　・10/13（火）　・11/10（火）

※ガイドの受付は 9 月から再開し、ガイドは 10 月から実施します。

ガイドブック「文化財を訪ねて～いたみ歴史散策～」（改訂版）　完成

会員にとってガイドの教科書ともいえるガイドブック「文化財を訪ねて」の改訂版が完成しました。

改訂版の作業がスタートしたのは平成 29 年 8 月。3 年間にわたり、末次編集長のもとで 4 名の編集委員により編集・校正作業が進められてきました。市内の各文化財の説明については会員全員が分担し、最近の研究成果を踏まえて、内容の修正が行われました。

今後、史跡めぐりのガイドや文化財の研究・学習に役立ててください。また、この本を手にされたすべての方が伊丹の歴史や文化遺産への親しみとご理解を深めていただければ幸甚です。

■発行冊数　1000 冊、A5 版・両面刷・118 頁
■定価　800 円/冊
■販売箇所　・同会の会員　・JR 伊丹駅内「伊丹市観光物産協会」
■編集・発行：伊丹市文化財ボランティアの会
（事務局）伊丹市教育委員会　生涯学習部　社会教育課内